

特集：イタリアの広場

PIAZZA D'ITALIA

TEXTURE AND STRUCTURE

GENJI TSUTSUI



実測・写真・文 筒井源治

都市と広場のイメージ

「イタリアの魅力を作りあげ、それにこのうえなく堂々とした気品をあたえるものは、人間の歴史と精神の息吹きが、土、空気、色彩、構図および形式の要素と溶け合ってきた、比類のない融合物」である、とヘンリー・ジェームズは書きとめている。イタリアのあたえる欲びは人間的な要素、すなわち何世紀もの間に、自分たちの手でつくりあげた風景に住むことからくるのであろう。

わたしたちは今まで、都市環境の計画について、あまりにも科学的、概念的、論理的、演繹的であった。現代の大都市がもう簡単な全体像をとらえることが不可能なほど、複雑で多様なものになってきたとき、そこに一つの反省が生まれてきつつある。都市はわたしたちに語りかけ、わたしたちは、そこに住むからにせよ、歩き回るにせよ、眺めるからにせよ、わたしたちがそこにいる町を語る。そういった町の「ものがたり」が理解でき、好ましい風景として語るができるとき、生き生きとした人間的な町があらわれるのであろう。イタリアの町はそういった人間的喜びに満ちた町として、多くの「ものがたり」をわたしたちに語ってくれるのである。

街路も広場も、イタリア人にとって生活の場であり、人間の生きる喜びにあふれた広間である。その広間は、軽々しく意気揚々として、陽気で精力にあふれ、いそがしい人びとで満ち満ちている。イタリアの町は常に、都市的空間の実体的モデルであり、多くのインスピレーションに満ちている。それは、石造りや煉瓦造りの町がもつ確かさ、形態的ほりの深さとスケール感、そこにまつわる人びとのつくりだす雰囲気、外に拡散しない内に向かった空間的充実感、強烈な太陽と構造物の対比、地形的变化と町のレジビリティなどがわたしたちに明確なイメージをつくりだし、魅力的な風景として映るのである。イタリアの町におけるイメージの明快さは、抽象的でなく具体的なものに即して思考するというイタリア的表現方法が、常にそのつくり出すものを機能を越えた一つの存在とするからであらう。

そういうイメージャブルな都市としてのイタリアの町をみなおそうところから、この筒井さんの「イタリアの広場」の研究ははじめられた。筒井さんは広場の資料収集のためにイタリアで3年間すごし、1年前日本に帰国後、資料の整理分析をし、その30余りの広場の一部が今回発表されることになった。この研究をもとに、都市的、建築的にイメージの構造を追求し、まちの「かたち」そのもののあり方を求めることができればと思うのである。

福永知義



はじめに

イタリアの地で、ガイドブックと写真集によって60ばかりの広場、都市をピックアップした。そして、一つ一つの広場と都市を実際に見て廻り、その中でも美しく、現在利用されている生きた広場を見付け出し、さらに理解しやすい建築空間をもつ広場を選択した。

こうして、現代に教える建築的遺産の重要性を知り、広場の研究を始めた。広場の研究の方法として、各々の都市で集めた多くの資料にもとづいて、現在の広場の状態を、私の図面として再成することで、広場の理解を深めようと試みた。

歴史的な遺産の研究にさいして、一般に誰もが抱く問題が、建築デザインを志す私に投げかけられる。過去に創り出された広場、それも、気候・風土もちがったイタリアでみられる広場が、都市計画された日本の現代の大都市や地方の小都市において、どのような可能性が見出されるかという問題が考えられる。

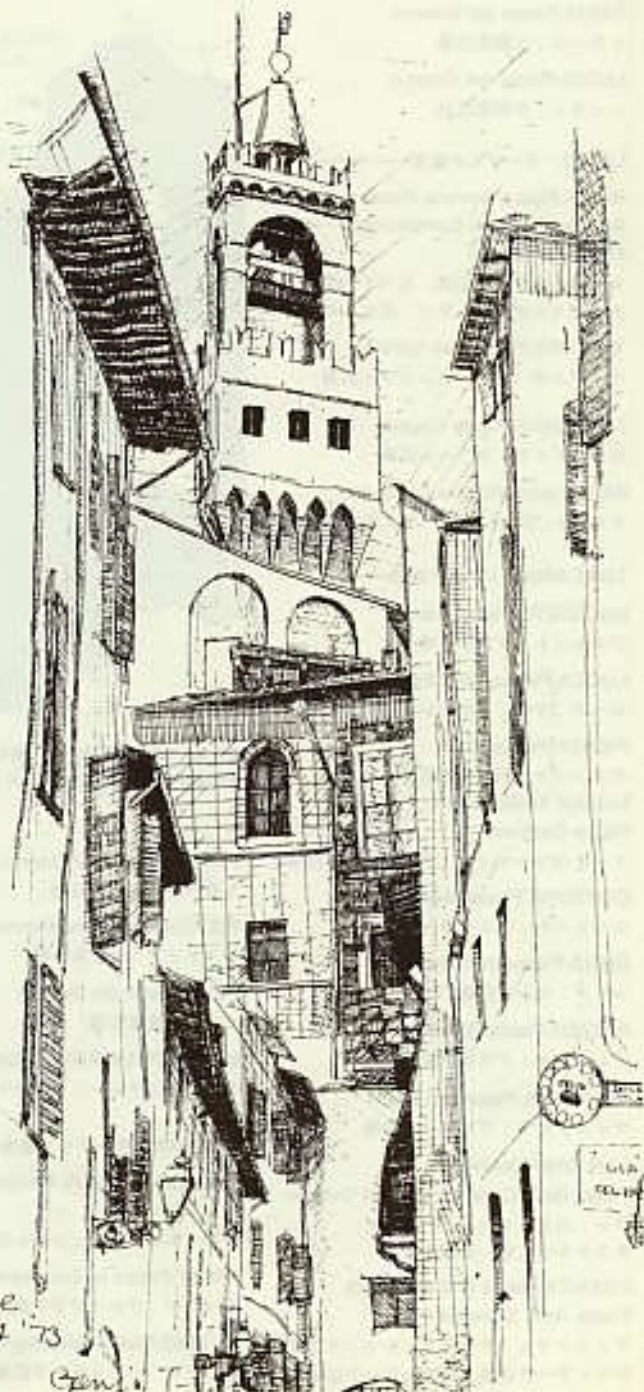
広場には、広場を包み込む建築物への影響と、一つの建築物または建築群が、広場におよぼす影響があるので、その高低差、形態、オリエンテーション、ディメンション、ヴィスタなどのさまざまな要素と広場との相互依存関係の理解を確立することが必要である。

イタリアの多くの都市を見て回って感じたことは、各々の都市の特性は、人が集まり、利用され、人と人との触れ合いがおきる日常生活の場、つまり広場と街路との相互関係からうまれる場として表現されている。都市のシンボル・スペースとなっている広場で、家の中では得られない共同体意識が強く表現される。

町の発生と同時に広場が生まれ、また政治、経済、宗教の変化による都市の成長や縮小に伴って、広場が展開し、都市と広場とが一体化した都市構造となっている。したがって、広場を理解することが、都市の本質を解明する一つの方法ではないかと思う。

しかし、日本で必要とされることは、人を集めるためにどのような道具だてを考えだすが、また人を集めるためにいかに広場を構成し、デザインを考えるかということよりも、広場と建築物との相互関係の理解によって、周囲の環境をいかによりよくするかという、内から外への環境づくりが必要であると思う。人が集まり、コミュニケーションがうまれることは結果にすぎないと考えられる。

したがって、日本では、イタリアのように都市の核としての広場ではなく、広場とこれを取り囲む建築群を、調和のとれた美しさとして捉えることが必要とされると思われる。こうした捉え方によって、ヒューマンな建築空間がイメージされ、おもしろいデザイン・ストラクチャがうまれると思う。



イタリアの町と広場の分布図 MAP OF ITALIAN TOWNS AND PIAZZA

SICILIA / シチリア地方

PALERMO: Piazza Quattro Canti
パレルモ: クワットロ・カンティ広場
ERICE: Piazza Umberto I
エリーチェ: ウンベルト一世広場

CAMPAGNA / キャンパーニャ地方

NAPOLI: Piazza del Plebiscito
ナポリ: プレビシット広場
ISOLA DI CAPRI: Piazza Umberto I
カプリ島: ウンベルト一世広場
AMALFI: Piazza del Duomo
アマルフィ: 大聖堂広場

PUGLIA / プーリア地方

TRANI: Piazza del Duomo
トラーニ: 大聖堂広場
LECCE: Piazza del Duomo
レッチェ: 大聖堂広場

LAZIO / ラーツィオ地方

ROMA: Piazza Navona, Piazza di Spagna, Piazza di Campidoglio, Piazza San Pietro
ローマ: ナヴォーナ広場, スペイン広場, カンピドリオ広場, サン・ピエトロ広場
VITERBO: Piazza San Lorenzo
ヴィテルボ: サン・ロレンツォ広場
TARQUINIA: Piazza Cavour
タルクイニア: カヴール広場
RIETI: Piazza Vittorio Emanuele
リエティ: ヴィットリオ・エマヌエレ広場

TOSCANA / トスカナ地方

GROSSETO: Piazza Dante
グロセット: ダンテ広場
LUCCA: Piazza San Michele
ルッカ: サン・ミケーレ広場
PIENZA: Piazza Pio II
ピエンツァ: ピオ二世広場
MASSA MARITTIMA: Piazza Garibaldi
マッサ・マリッティマ: ガリバルディ広場
CORTONA: Piazza Signarelli
コルトーナ: シニョレリ広場
SIENA: Piazza di Campo
シエナ: カンポ広場
AREZZO: Piazza Grande
アレッツォ: グランデ広場
VOLTERRA: Piazza dei Priori
ヴォルテッラ: プリオール広場
SAN GIMIGNANO: Piazza della Cisterna and del Duomo
サン・ジミニャーノ: チステルナ広場, 大聖堂広場
FIRENZE: Piazza S.S. Annunziata, Piazza della Signoria
フィレンツェ: サンティッシマ・アンナ広場, シニョリア広場



番号はp. 99-p. 103の町の番号を示す。
Numbers indicate towns on p. 99-p. 103.

PRATO: Piazza del Duomo
プラート: 大聖堂広場
PISTOIA: Piazza del Duomo
ピストイア: 大聖堂広場
PISA: Piazza del Duomo
ピザ: 大聖堂広場
MONTEPULCIANO: Piazza Grande
モンテプルチャーノ: グランデ広場
UMBRIA / ウンブリア地方
PERUGIA: Piazza IV Novembre
ペルージャ: クワットロ・ノヴェンブレ広場
ASSISI: Piazza di San Francesco
アッシジ: サン・フランチェスコ広場
GUBBIO: Piazza della Signoria
グッビオ: シニョリア広場

FOLIGNO: Piazza del Duomo
フォリーニョ: 大聖堂広場
BEVAGNA: Piazza Silvestri
ベヴァーニャ: シルベストリ広場
ORVIETO: Piazza del Duomo
オリヴィエート: 大聖堂広場
SPOLETO: Piazza del Duomo
スポレート: 大聖堂広場
TODI: Piazza del Popolo
トーディ: ポポロ広場
MARCHE / マルケ地方
ASCOLI PICENO: Piazza del Popolo
アスコリ・ピチェーノ: ポポロ広場
FABRIANO: Piazza del Comune
ファブリアーノ: コムーネ広場
LORETO: Piazza della Madonna

ロレート: マドンナ広場
URBINO: Piazza del Rinascimento
ウルビーノ: リナシメント広場

EMILIA-ROMAGNA / エミリア=ロマーニャ地方

BOLOGNA: Piazza Maggiore
ボローニャ: マッジョーレ広場
PARMA: Piazza del Duomo
パルマ大聖堂広場
PIACENZA: Piazza dei Cavalli
ピアチェンツァ: カヴァッリ広場
CASTELL'ARQUATO: Piazza Matteotti
カスツアルクワート: マッテオッティ広場

LIGURIA / リグリア地方

GENOVA: Piazza San Matteo
ジェノヴァ: サン・マッテオ広場

VENETO / ヴェネト地方

VERONA: Piazza d'Erbe
ヴェローナ: エルベ広場
VICENZA: Piazza dei Signori
ヴィチエンツァ: シニョーリ広場
TREVISO: Piazza dei Signori
トレヴィーゾ: シニョーリ広場
VENEZIA: Piazza San Marco
ヴェネツィア: サン・マルコ広場
TORCELLO: Piazza di Torcello
トルチェッロ: トルチェッロ広場
BELLUNO: Piazza del Duomo
ベッルーノ: 大聖堂広場
FELTRE: Piazza Maggiore
フェルトレ: マッジョーレ広場

FRIULI-VENEZIA GIULIA / フリウリー=ヴェネツィア=ジュリア地方

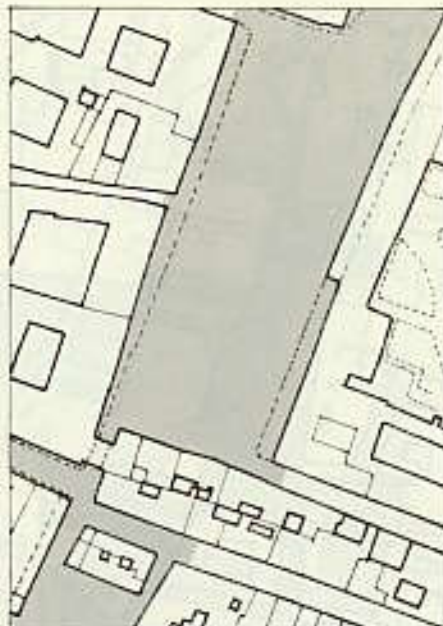
UDINE: Piazza della Libertà
ウディネ: リベルタ広場

LOMBARDIA / ロンバルディア地方

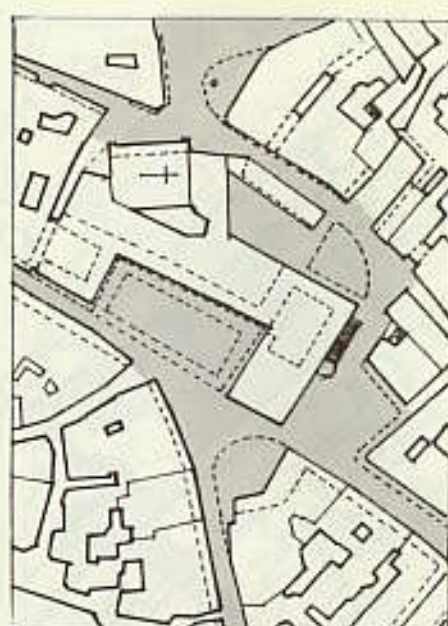
MIRANO: Piazza del Duomo
ミラノ大聖堂広場
VIGEVANO: Piazza Ducale
ヴィジェヴァノ: ドゥカール広場
LODI: Piazza del Comune
ローディ: コムーネ広場
MANTOVA: Piazza d'Erbe etc.
マントヴァ: エルベ広場他
BERGAMO: Piazza Vecchia and del Duomo
ベルガモ: ヴェッキア広場, 大聖堂広場
CREMONA: Piazza del Comune
クレモナ: コムーネ広場



1-TORCELLO / トルチェッロ
Piazza di Torcello



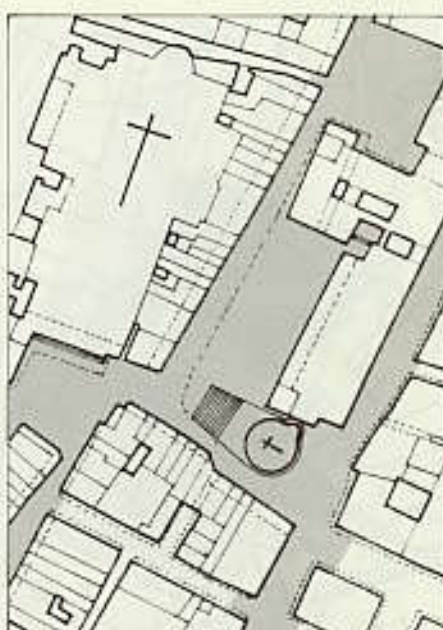
3-MANTOVA / マントヴァ
Piazza Mantegna, d'Erbe Erbe and del Duomo



4-TREVISO / トレヴィーゾ
Piazza dei Signori, Indipenza and Monte di Pietà



2-BERGAMO / ベルガモ
Piazza Vecchia and del Duomo



5-ISOLA DI CAPRI / カプリ島
Piazza Umberto I

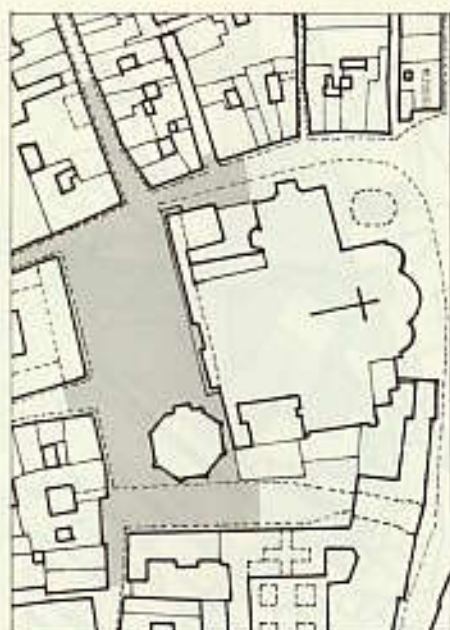
広場

私たちにあって広場とは何だろうか。世界中の誰れもが広場という言葉を取り扱っている。特にイタリアでは、「何時に何広場のパールの前で会おう」「何広場の教会の前の階段で……」というように地理的に明確にする生活の一つの材料としても存在している。また毎日の生活にとって、切り離せない生活の場、憩いの場となっている。

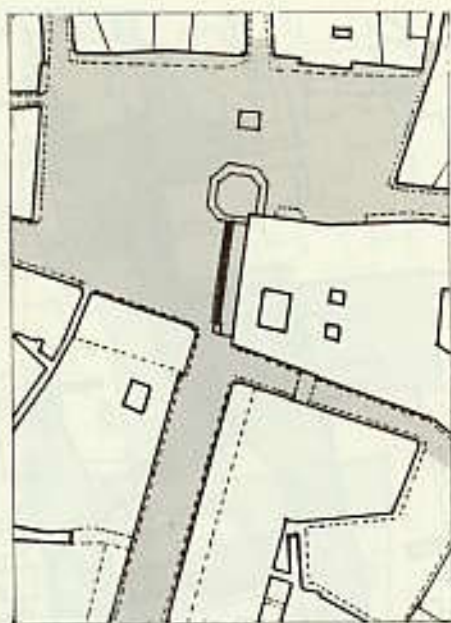
Piazza, Piazzetta, Square, Place, Plaza, Circle などというように数多くの言葉が、何気なく、世界中いたるところで使われている。広場でゲームを楽しみ、広場で展示し、広場でお祭りをし、広場で友達、恋人との待ち合わせ、広場での市場、そして広場でコーヒーを飲みながら時を過ごすなど、このようにただ広くて、空っぽの場が、非常に多くの

可能性と機能性を持ち、日常生活の中に溶け込み、町、都市の重要な位置を占めている。広場の本当の意味は何だろうか、そこで生活を営む人びとにとっては、改まって論議したり定義づけたりする必要もないことだろう。誰も広場が何であるか？と考えたりもしないし、尋ねもしない。彼らにとって広場は、毎日のインプレッションである。それだけで十分な解答といえる。

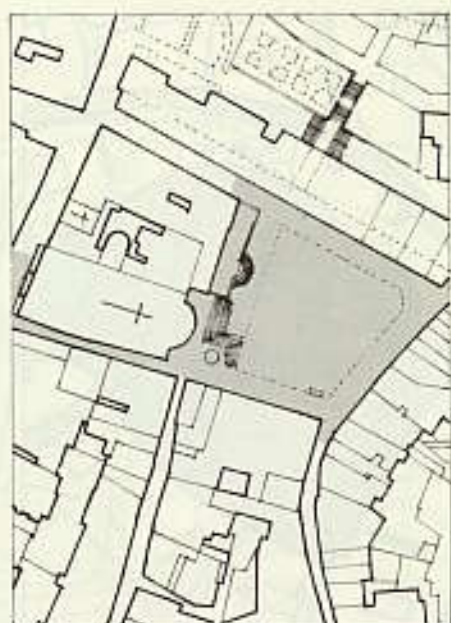
それではここで、建築家の観点から、広場とは何であるかを考えてみる必要があると思う。建築用語辞典には、次のように定義されている。「交通、集会、美観、市場などの為に設けられた公共的な空地」。一方、イタリアの建築と都市計画を取り扱った用語辞典には、「Uno spazio libero, circondato prevalentemente da edifici che assume funzione



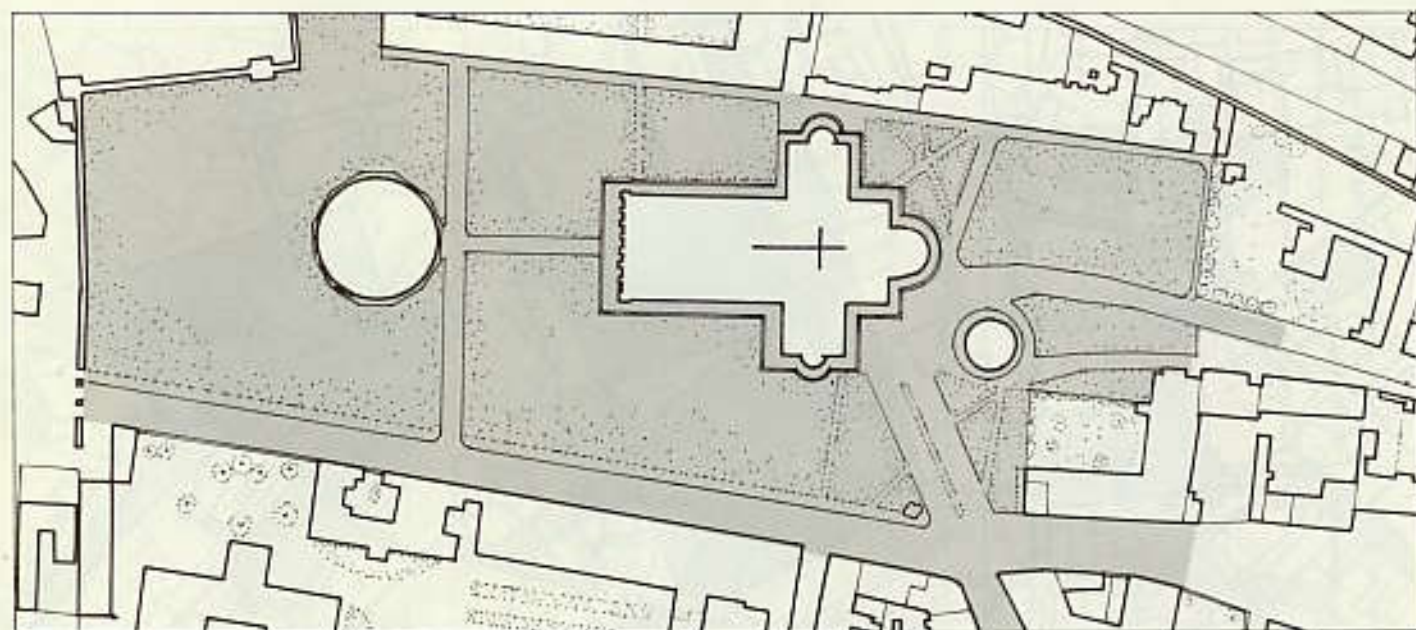
6—CREMONA / クレモナ
Piazza Cavour



7—FIRENZE / フィレンツェ
Piazza della Signoria



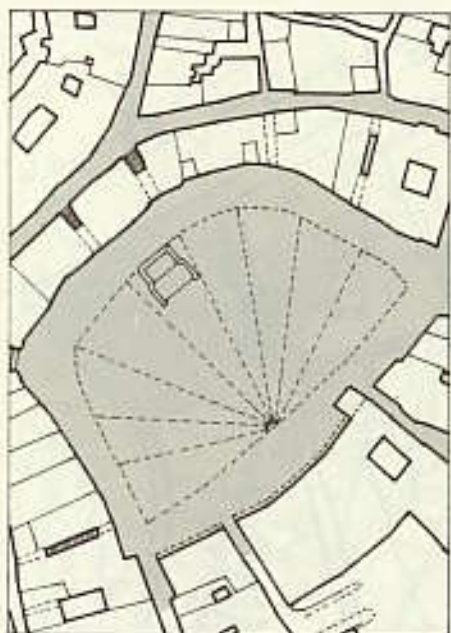
8—AREZZO / アレッツォ
Piazza Grande



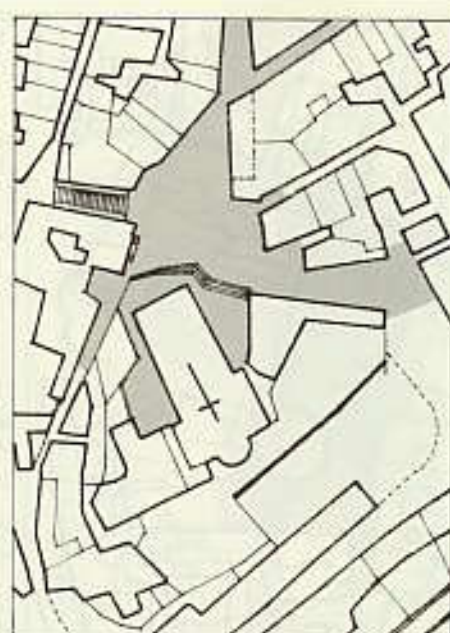
9—PISA / ピサ
Piazza del Duomo

diverse* (さまざまな機能をもつ建物によって、完全に囲まれたオープン・スペース)と書かれている。ここで、日本とイタリアの両国間には、広場と建物の相互作用について大きな基本的概念の相違が見られる。日本では、空地ならば広場となり得ると解釈され、イタリアでは、広場を建物と結びつけ、範囲をせばめた解釈がなされている。それでは、私たちは、広場をどのように考え、理解を深めたらよいのだろうか。もし、あなたが広場を公共的な場として望むならば、まず広場は、オープン・スペースでなければならない。つまり、市場、遊び、展示などのような何らかの機能性を与える場である。限りなく広がる場におかれたときのとまどいからくる恐怖感を与えたり、狭くて圧迫感を与えるような小さな空間ではない、適当な広さが必要となる。そこで、イタリアの代表

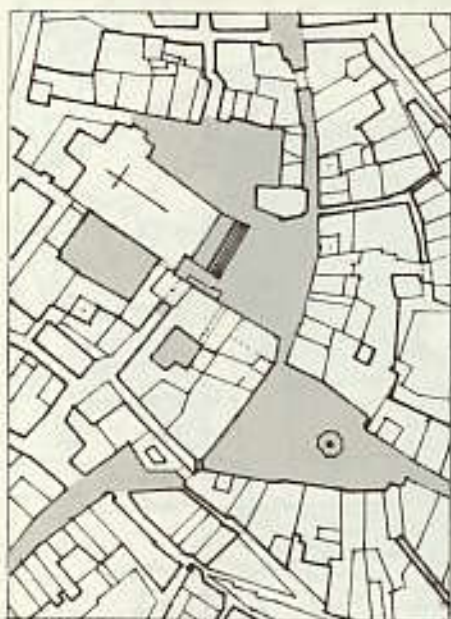
的な広場の具体的な広さの例として、ピエンツァのピオ二世の広場(約120平方メートル)からローマのサン・ピエトロ広場(約3万7500平方メートル)までの広さ——これより広くなると、広場は公園となる可能性がある——を妥当と考えることにする。そして、常に何らかの機能性を与えるためには、車が侵入できないこと。さらに、この「広場の研究」で取り扱った広場にもみられるように、何らかの要素、道具立てによって囲まれた中庭のような場であることである。こうした制限された広場として成り立たせるためには、植木、壁、彫刻、建物、ベンチ、オペリスクなどのような人工的な要素の集合体と、河川、山、森林、池、谷、崖などの地勢・地理的条件からなる自然的要素の集合体が関係する。つまり、これらの要因と主要建築物とは、建築空間を創り出すうえで、つねに密接不



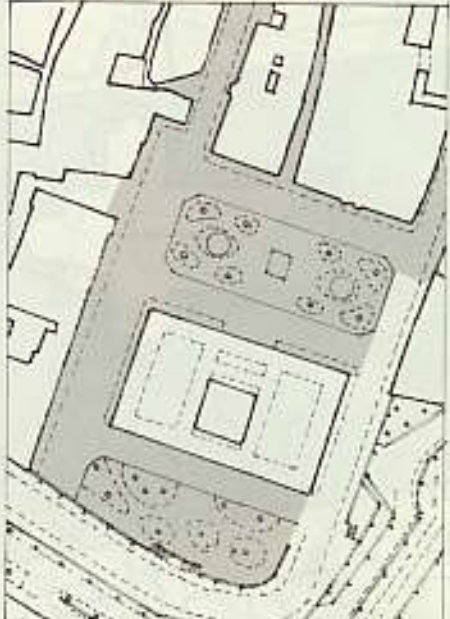
10-SIENA / シエナ
Piazza del Campo



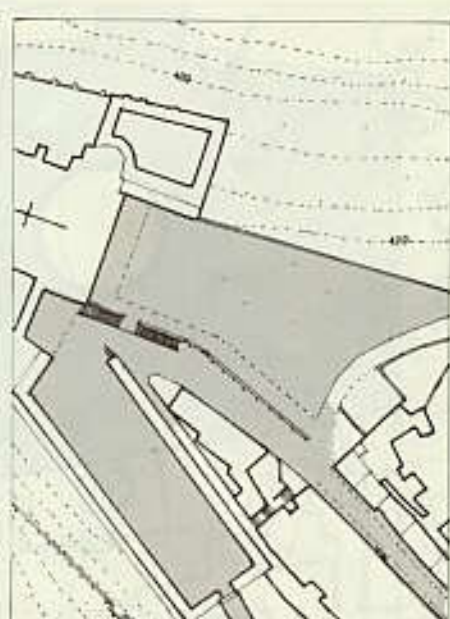
13-MASSA MARITTIMA / マッサ・マリッティマ
Piazza Garibaldi



11-SAN GIMIGNANO / サン・ジミニャーノ
Piazza della Cisterna and del Duomo



12-PERUGIA / ペルージャ
Piazza Danti and IV Novembre



14-ASSISI / アッシジ
Piazza Sup. and Inf. di S. Francesco

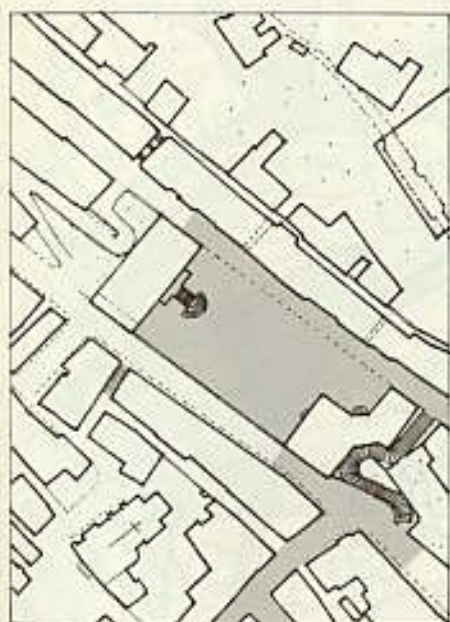
離の関係にある。そこで、基本概念として、広場は、車に進入されない敷地をもち、自然的要因と物理的要因によって制限された、ある一定の広さを確保したオープンなパブリック・スペースであると考えられる。

日本の広場

歴史的に、日本では都市における一般市民の生活の場は、目的機能性の建物、街路、家族の住む住空間の三者の連結で構成されていた。すなわち、仕事や買物をするための目的機能性の建物、各家は障子やふすまでつながっているため、個人の独立した生活ができにくい、家族の住む住空間と、その住空間の延長である街路によって都市が構成されていた。一方ヨーロッパでは、

ギリシア時代のアゴラとローマ時代のフォーロ・ロマーノが特定の階級を中心とした人たちの生活の場として利用せられ、中世になると、ヨーロッパで創られた広場が、階級に差別なく、一般市民の生活の中に融け込んだ公共的、社会的空間として用いられるようになった。しかし日本では、生活の中に融け込んだ市場、祭りなど人と人との触れ合いの場としての広場のかわりに、おもに街路が利用された。現在、このような街路は交通の手段の自動車のための道路と化した。

「重要なのは交通ではなく人びとの生活である」とイギリスの建築家オー・クロスビーが著書「City Sense」でいっている。交通が完備されれば、都市の発展へとつながるが、人びとの生活の立場を軽視する計画がなされているため、人びとは自動車に気を配りながら行動し、道路は完



15-GUBBIO / グッビオ
Piazza della Signoria



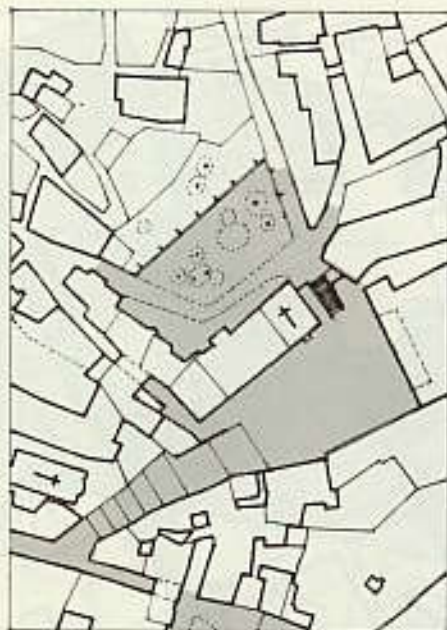
17-TODI / トーディ
Piazza del Popolo



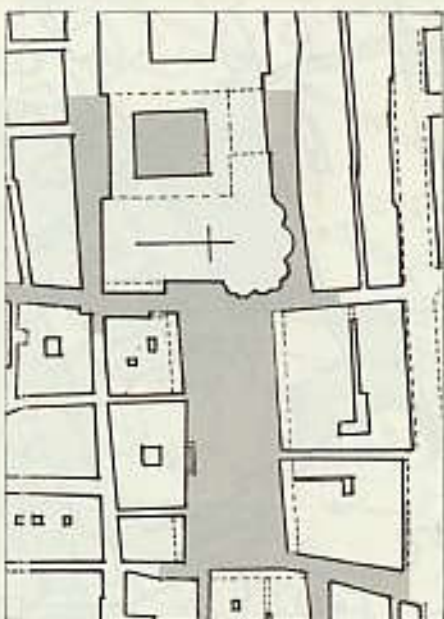
19-PIENZA / ビエンツァ
Piazza Pio II



16-BEVAGNA / ベヴァーニャ
Piazza Silvestri



18-SPOLETO / スポレート
Piazza del Duomo



20-ASCOLI PICENO / アスコリ・ピチーノ
Piazza del Popolo

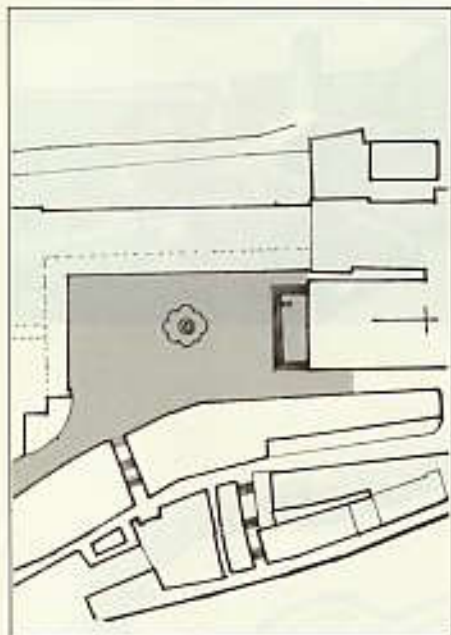
全に車の支配下になろうとしている。

このように、人間社会の領域が機械によって占有され、機械社会中心へと変化してゆく。そこで人びとは、家の中に閉じ籠り、閉鎖社会を築くことになり、地獄的ないしは自然的な開放的環境から遠ざかってゆくことになる。こうして、人間社会で必要とされる共同体意識がもろくも崩れることになる。

こうした状況も思案し、人間の生活、また余暇を楽しむためのパブリック・スペースの必要性から、ヨーロッパに散在する広場の性格、本質について今まで幾度も論議されてきた。1951年のイギリスのC I A Mの第8回会議の主題となった「都市の核」を契機として、都市のあり方が考え直されたことがある。ここで「核」という言葉の意味づけは、ゲー

ディオンの著者「現代建築の発展」によれば、MARSグループによって、「コミュニティをただ個人の集合ではなく、コミュニティとする要素」と定義されている。しかし、磯崎新氏の著書『空間へ』からプロットすると、「個から群化する媒体としての核、広場を理解し、それを創りさえすれば、コミュニティ生活が再建されると考えられた単純さが、一般化し消失の原因になったらしい」と書かれている。それは、また同時に、結果をあまりにも早く求めすぎた傾向があったからではないだろうか。

ヨーロッパの広場を歴史的観点からみると、世界でもっとも知られているヴェネツィアのサン・マルコ広場でさえ、1000年の年月がかかっており、フィレンツェのシニョリーア広場も徐々に建物の増築、彫刻の設



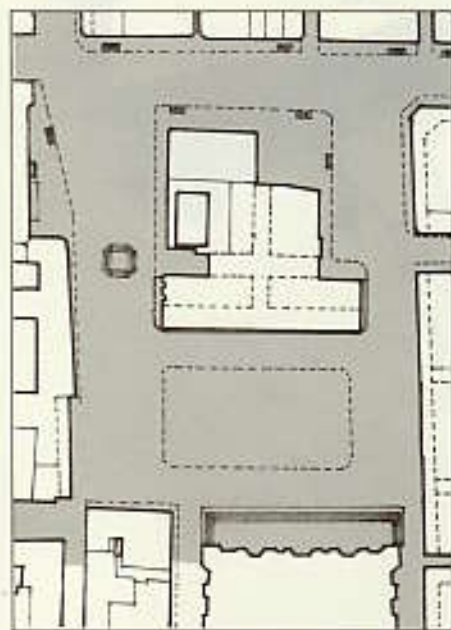
21-LORETO / ロレート
Piazza della Madonna



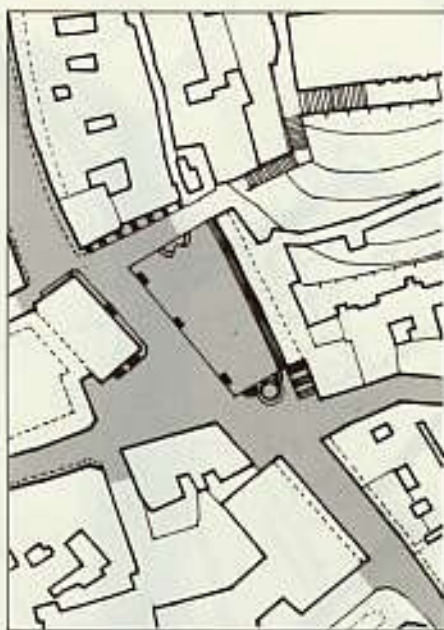
23-VIGEVANO / ヴィジューヴァノ
Piazza Ducale



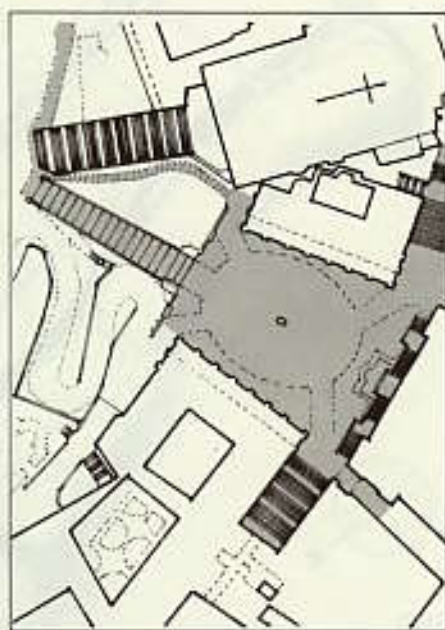
25-FELTRE / フェルトレ
Piazza Maggiore



22-BOLOGNA / ボローニャ
Piazza Maggiore



24-UDINE / ウディネ
Piazza della Libertà



26-ROMA / ローマ
Piazza del Campidoglio

置が行なわれ、現在のような美しい景観を示しているわけである。

日本の雑然と密集した都市の中での広場の存在は、日本の広場として、より重要な意義と必要性があると思う。中世ヨーロッパにみられる都市において、パブリックとプライベートの関係が、広場と室との相対性で表現されている。それは、共同社会の意識は、誰にも犯されない個人の場意識との同一性が認められて、はじめて成立すると考えられるからである。日本では、パブリック・スペースは街路であり、プライベート・スペースであるべき室（住空間）も家族を単位としたスペースでしかなかった。そして現代になり、アメリカ、ヨーロッパ文化が広がり、伝統的なものと現代的なものとの混然とした社会構成が行なわれ、核家族化する傾向につれて、住空間にもプライベートの占めるウェイトが

大きくなっていると考えられる。しかし一方において、街路などのパブリック・スペースは過密社会のため、広場の代行としての機能が失われようとしている。またパブリック・スペースの必要性から、残部空間は広場として取り扱われている。つまり、数地に建物をデザインし、その残った部分を何々広場と名づけ、広場自体を商品化あるいはモニュメントとしている。このようなことが続けられると、いたるところに、無計画にオープン・スペースがつくられ、これらが都市のくぼ地となり、統一性の失われた都市となる危険性がある。したがって、パブリック・スペースの本来の意味と存在の意義が改めて論ぜられる必要があると思われる。